まつやま子どもの想い作文コンクール

優秀賞受賞作品

大好きだよ！私のおじいちゃん

済美平成中等教育学校　１年
古　田　さくら

「おじいちゃん、遊びに来たよ！。」
私は毎日学校帰りにおじいちゃんの家に行きます。帰り道に必ず通るので、その際に顔を出すようにしています。おじいちゃんは、誰よりも優しくて、たくさんの事を知っていていつもそっと見守ってくれます。まさに神様的存在です。私は、小さい頃からおじいちゃんが大好きでした。欲しがっていたおもちゃを買ってくれたり、おこづかいをくれたりととても優しくしてくれました。さらに私はもう一点好きな点があります。それは、おじいちゃんの一つ一つの言葉です。ある時、学校で楽しかったことを話すと、
「楽しいと思える事があれば、それだけで人は幸せになれる。だから、自分で楽しいと思える事を必死に探してごらん。」
　と私に教えてくれました。
　また、ある時悲しかった事や嫌だった事を話すと、
「悲しい、嫌と思った時こそ笑いなさい。つくり笑いでもいいから。」
　と私を励ましてくれました。心も体もポッカポカに温まって帰ったのを今でもしっかりと覚えています。また、自然と笑顔になりおじいちゃんと私で一緒に笑った時の笑顔は今までで一番気持ちのよい笑いでした。他にもたくさんの言葉をかけてくれたけど、私はそれらの言葉を一秒たりとも忘れた事はありません。おじいちゃんの言葉は私にとって魔法の言葉です。そんな、優しいおじいちゃんは私が常に笑って、元気でいる事が一番、嬉しい！と何度となく、くり返してつぶやきます。だから私は、おじいちゃんの家のドアノブを回すと同じに、元気な声で笑いながら、
「おじいちゃん、遊びに来たよ。」
　そう叫ぶのです。